

米国陸軍中尉エレン・ワタダの演説

於 平和のための退役軍人全国大会（2006年8月12日）



[訳注: 司会者の紹介の後、盛大な拍手と声援が続く中をワタダ中尉が演壇に立ち話し始めようとした時、会場から 50 名余りの男女が列を作って進み出てワタダ中尉の背後に並び、終始立ったままで見守りながら真剣な表情で中尉の演説を聴いていた]

皆さん、有難う。大変なご支援を頂いて、皆さんに感謝します。今晚、私は、こうして皆さんと一緒に同じ部屋にすることができて、大変光栄で嬉しく思います。そして、他の素晴らしい講演者たちと一緒に私も話しができることに、とても恐縮しています。

あなた方は、皆が本当のアメリカ人愛国者です。皆さんは、退役されてから長くても一度確信して遵守することを誓った主義のために闘い続けてこられました。退役軍人ほど戦争の

荒廃と苦しみを知っている者はいません。だからこそ、私達が常に戦争を阻止する最初の者にならなければいけないのです。

私は、今夜何を話すべきか全く決めていませんでしたが、一般的にリーダーとしては、皆さんの意欲を高めるような話をしなければいけないと考えました。勿論、ここは軍隊ではありませんし、又ここにはかつて軍隊で私より階級が上であった方々も多いことを知っています。…そう、私は只の中尉ですから。それでも、私達は皆がこの偉大な国の同じ人民であると思いますし、また、私がここで話すべきことは、権限上の事柄ではなくて、一人の人民が他の人民に伝えるべきものだと思います。

私達は、今回の戦争が過去3年余りにわたって私達の国をずたずたに引き裂くのを見てきました。私達は、この戦争に反対して静かな抗議行動から議会への文書要請にいたるまで色々やってきましたが、どれも政府当局を説得する上で効果がなかったように思われます。そこで今夜は、戦術の変更について、私の考えを皆さんに話してみたいと思います。私は、実は信念の飛躍をして、今夜ここに来ています。もっとも、私の行動が最初でもなければ最後でもないことは確かです。しかし、あとに続く者たちに代って、ここに私は、皆さんの支援、皆さんの献身的な支援を、そして他の大勢のアメリカ人の献身的な支援を要請します。私は失敗に終るかも知れません。また、私達はうまくいかないかも知れません。私達がやってきたことは、これまでどれも成功していません。今や、やり方を変える時です。そして、その変更を私達皆で始めるのです。

今日私が皆さんの前に立っているのは、専門家としてではなく、また全てに答えられるかのようなふりをする者としてでもありません。私は、単に一人のアメリカ人であり、アメリカ人民に奉仕する者にすぎません。今日私が謙虚になって云いたいのは、まさにこのことなのです。勿論、皆さんが私の意見の全てに賛同するとは思っていません。そして、私は人気取りでリーダーになる選択をしたわけではありません。私は、この国の兵士たちに奉仕し彼等を向上させるためにリーダーになる道を選択したのです。その際、私はこの責任を法の支配の下で正しく遂行することを厳粛に誓いました。

今日、私は皆さんに革新的な考えを話します。それは、他ならぬアメリカの兵士(または軍人)の思想から生まれたものです。それは、ヴェトナム戦争を終わらせるのに役立ちましたが、その後は長らく忘れられていました。その思想と云うのは、こうです。…つまり、違法で不正な戦争を止めさせるためには、兵士たちがその戦争を戦うことを止める選択をすることができるということです。〔訳注: 盛大な拍手で中断〕

もっとも、これは兵士にとって簡単なことではありません。と云うのは、そうしようとする者は他の不当な利益のために利用されることを用心しなければならないからです。彼等は、各自の行動に責任を持たなければなりません。彼等は、この国の憲法に忠実でなければならず、また人民こそが彼等の指導部のイデオロギーより上に立つものであることを忘れてはいけません。更には、仲間の兵士たちから排斥されることにも甘んじて立ち向かい、家族の安否をも心配し、そして、もちろん個人的な自由もなくなることを覚悟しなければなりません。そうして国内の独裁的な政権に抵抗することは、戦場で外国の侵略者と戦うのと同じように重要であることを理解しなければなりません。〔訳注: 拍手で中断〕最後に、軍服を着る者たちは、不道徳で不法な命令を拒否することで、単なる言葉ではなく行動によって人民大衆から支持されることを確信しなければなりません。〔訳注: 拍手で中断〕

アメリカの兵士は、常に何の疑いももたず権威に服従せねばならないと云う社会通念を超越しなければなりません。階級は、尊重されなければいけません、無条件に服従すべきものではありません。先ずは、直接的な軍事介入か或いは代理戦争によってアメリカと云う名のもとになされた諸々の残虐行為と破壊の歴史を知ることが決定的に重要です。この戦争〔訳注=ブッシュ政権による対イラク戦争〕は、自衛のための戦争ではなく、利権と帝国主義的支配の為

に意図された戦争であることを理解しなければなりません。〔訳注: 拍手で中断〕戦争の口実を大量破壊兵器・アルカイダ・9-11 事件などに関連づけていますが、そのような関連は決して存在しなかったし今後もありえないでしょう。辛うじてしかも如何わしく選出された公職者ら〔訳注=ブッシュ大統領とチェニー副大統領を指す〕が、戦争を仕掛けるために、議会と公衆にそして世界中に示した証拠なるものを意図的に操作したことを、兵士たちは知らなければなりません。そして、彼等は、先制攻撃による予防戦争の禁止は今日なお有効なアメリカの法であり、議会も現政権もこの法を犯す権限を持っていないことを知らなければなりません。この同じ政権が、私達を使って長年確立されていた捕虜の虐待陵辱禁止法令を乱暴に犯しやりたい放題をしています。アメリカの兵士は正しいことをしたいと望んではいますが、武力占領そのものの違法性、現政権の諸々の政策、そして緊迫した戦場の指揮官らの交戦規則などが、結局は彼等兵士たちを戦争犯罪に加担させてしまうのです。従って、兵士たちが行動するためには、彼等は、全てでなくとも少しでも多くこうした事実を知る必要があります。

かつてマーク・トゥウェインがこう云っています。・・・「人は、ただ自分だけで、何が正しく何が悪いか、どちらの道が愛国的かそうでないのかを決めなければならない。これを回避しては人間になることが出来ない。自分の信念に反して決めることは、自分自身にとっても又自分の国に対しても不適格で許せない裏切り者になることなのだ」と。これによると、全てのアメリカの兵士は、海兵隊であろうと、航空兵であろうと、又水兵であろうと、一人一人が自分の選択とその行動に責任を持たなければならないのです。選択の自由は、私達が自分自身をも否定できる唯一の自由でもあります。

私達がする宣誓は、特定の個人に対してではなく、人民大衆を守るために意図された原則と法律の文書に対して忠誠を誓うものです。軍隊に入隊することは、人の真実を求める権利を放棄することではありませんし、また人の理性的な思考や善悪を区別する能力を免除することでもありません。「私はただ命令に従っただけ」と云うのは、決して言い訳にならないのです。

ニュルンベルグ裁判〔訳注=1945-46年にドイツのニュルンベルグで行われたナチス指導者らに対する国際軍事裁判〕は、兵士と同じく一般市民にも彼等の政府が犯した戦争犯罪の共犯者になることを拒否する義務があり、それを免れられないことをアメリカと世界に示しました。拘束した人々を至るところで拷問したり非人道的に取り扱うことは、戦争犯罪であります。非公式な予防政策により起された侵略戦争は、平和に対する犯罪です。国際人道法と国家主権の本質を侵害する武力占領は人道に対する犯罪です。しかも、これらの犯罪は、私達の税金によって賄われているのです。こうした実情を市民たちが自らに責任のある無知あるいは選択によって黙認するのであれば、それは、これらの犯罪における兵士たちと同様に彼等をも同罪にするのです。〔訳注: 拍手で中断〕

憲法は、単なる文書ではなく、また古い時代遅れの現代に不適當な法律でもありません。それは、アメリカ人が大切にしている全てを、即ち真実・正義・そしてあらゆる人に対する平等を体現しているのです。それは、人民の人民による政府の在り方を定めた唯一の規範です。そこでの政府は、それが奉仕する人民大衆に対して開放され何事にも責任が取れるものです。憲法は、専制体制化する悪を防止するために、権力を分立させ権力間の相互抑制と均衡によって統治する仕組みを規定しているのです。

憲法は、強固ですが万全ではありません。それは、人間性の脆さを全て考慮しているものではないのです。利得・貪欲・権力欲は、統治機関を腐敗させるのと同様に個々人をも墮落させることができます。アメリカ憲法の制定者たちは、金銭が私達の政治制度を如何に侵害するかを想像できなかったのでしょうか。また、彼等は、後日常備軍が利得や帝国主義領土拡張のために使われることなど信じられなかったでしょう。更には、よくある独裁国家のように、兵士たちが自由な社会にあるまじき最低の野蛮な振る舞いとみなされる各種の凶悪な行為を命令されることなど想像だにできなかったでしょう。〔訳注: 拍手で中断〕

アメリカの兵士は傭兵ではありません。兵士たちは、給料をもらうためにのみ戦争を戦っているわけではありません。ところが、アメリカ兵の身分は傭兵よりも悪いのです。と云うのは、雇われ兵なら、もし雇い主の行動に幻滅すればさっさと辞めることができますが、アメリカの兵士たちは、特に戦争ともなれば、愛国心から志願した者であろうが経済的窮乏から徴兵された者であろうが、全て年季契約奉公の下僕になるのですから。そこでは、兵士の信じていることが道徳的に正しいかどうかが重要になるのでしょうか。もしこの戦争〔訳注＝目下のイラクでの戦争を指す〕がやむをえない戦争であるのならば、何故、兵士たちに戦いを強制しなければいけないのでしょうか。それがイデオロギー上の戦争となると、善悪をはっきりと区別することなく曖昧にされてしまうのです。Catch-22〔訳注＝逃れようのない不条理な状況。戦争と云う狂気の世界から自由への脱出が絶望的であることを描いた米国の作家 Joseph Heller の同名の小説から〕と云う言葉が現代アメリカの軍隊を定義づけるようでは、何と悲惨なことでしょう。〔訳注：拍手で中断〕

年季契約奉公による奴隷状態の現実はともかくとして、アメリカの兵士は、理論上は大変高尚であります。兵士であろうと将校であろうと、私達が宣誓するのは、真っ先に憲法とそれが保護する人民に対してです。もし兵士たちはこの戦争が憲法の称揚するところに反することに気づいたならば、もし彼等が立ち上がり武器を投げ捨てたならば、いかなる大統領も再び自分の選択で戦争を発動することが出来なくなるでしょう。〔訳注：拍手で中断〕私達が「・・・国外と国内の全ての敵に対して」と云う時、もし選出された指導者らとその敵であったならば、どうなるのでしょうか。私達は誰の命令に従うのか。その答えは、一人一人の兵士、一人一人のアメリカ人、そして一人一人の人間としての良心にあるのです。私達が憲法に対して果たすべきは義務であり、一つの選択ではありません。

軍隊、特に陸軍は、友愛と緊密な友情の組織です。仲間の圧力は結束を固めるためにあるのですが、他方では、それが個々人の主体性と思想を踏み潰すことになります。兄弟的結びつきの観念は、その代わりとなるものが孤独であり孤立であるならば、なかなか引き離し難いものです。従って、もし私達が兵士らに正しくとも困難な道を選ぶことを望むなら、その場合、彼等はアメリカ人民によって必ず支援されるであろうことを疑念の余地なく知ってもらわねばなりません。〔訳注：拍手で中断〕時の政権や上官の命令に抵抗する兵士たちを支援するためには、皆さんが自分達の声を上げなければならぬのです。もし彼等に何千もの人々が私を支援しているのが見えれば、彼等にもきっと分るでしょう。実は、私も、スーザン・スウィフトさんやリッキー・クロウズウィングさん〔訳注＝相前後して反戦に立ち上がった他の兵士たち〕が聞いたように、皆さんの支援の声を聞きました。しかし、他の多くの者たちは未だ聞いていないのです。今や、ますます多くの兵士たちが、自分らに指示されている行動に疑問を持ち始めています。とは云え、大多数の者は、マスコミの大見出しの下に隠されている真実に未だ気づいていません。更に多くの者は、ただ服従する以外になすすべを知らないのです。従って、私達は、心を開いた兵士たちに選択肢を示し、そして彼等に行動する勇気を与えなければなりません。

3週間前に、第172ストライカー旅団〔訳注＝ストライカー型装輪装甲兵員輸送車を常備した緊急即応部隊〕所属のヘルナンデス軍曹が戦死し、妻と二人の子供が残されました。マスコミの取材を受けて、彼の妻は彼が家族の生存のために命を犠牲にしたのだと云いました。ヘルナンデス軍曹はきっと彼の兄弟たち〔訳注＝同僚の兵士たちを意味する〕との友情を大切に思っていたでしょうが、それにしても他に選択が与えられておれば、彼が夫や父親のいない家族を残すような立場に自分自身を置くとは思われません。実は、そこが肝心なところです。ヘルナンデス軍曹のような兵士人々には他に選択肢がないのです。彼等の選択肢は、イラクで戦うか、さもなければ家族を餓えさせるかのどちらかなのです。多くの兵士たちが一緒になってこの戦争を拒否しないのは、彼等が、私達皆がそうであるように自分たちの家族を自分自身の命よりも大切に思い、そして恐らくは自分自身の良心よりも大切に思っているからでしょう。自分の家族の生計を否定しながら、主義と道義のために誰が甘んじて何年も刑務所で過すことができるのでしょうか。

私が何故こんなことを皆さんに話すかと云いますと、この戦争を止めさせるには、即ち兵士たち自身が戦うことを止めるためには、彼等が人民大衆から無条件の支持を得なければならないことを皆さんに分ってもらいたいからです。私は、この支持を私自身の目で見てきました。私にとって、それは信念の飛躍でした。他の兵士たちには、このような贅沢はありません。彼等もそれを享有しなければいけませんし、皆さんもそれを彼等に示さなければなりません。彼等がどれほど長く刑務所にいようとも、又この国が立ち直るのにどれほど長くかかるろうとも、彼等の家族には、頭上に屋根があり、胃袋に食べ物があり、よりよく生きる機会と教育が与えられることを彼等に納得させるのです。〔訳注: 拍手で中断〕これは、大変難しい任務です。私達皆の犠牲を必要とします。何故、カナダ人たちが、正しいことをしようとした私達の同胞アメリカ人に食料と家を提供しなければいけないのですか。〔訳注=ヴェトナム戦争以来、今日もなお、アメリカの反戦兵士たちの多くは軍隊を離脱して隣国カナダに亡命している〕私達は、自分たちの同胞を世話する者になるべきです。私達はそれほど無力なのでしょう。私達は、本当にこの戦争を終わらせることができる人々のために何の危険も冒したくないのでしょうか。皆さんは、戦争ではなく兵士たちをどのようにして支援すればよいのでしょうか。それは、戦争を本当に止めることのできる人たちを支援することによって可能なのです。不法な戦争に参加することを拒否し抵抗することは決して無駄なことでも将来性のないことでもありません。先ずは、このことを彼等に知らせようではありませんか。〔訳注: 拍手で中断〕

私は、文句を云わず絶対服従することを強いる軍律を破った以外は、如何なる法律も犯していません。もし私に何らかの罪があるのなら、それは、私が学びすぎて仲間の兵士たちや同じ人類の人々が無意味な命の失い方をすることに深く心を寄せすぎたことです。もし私が罰せられるのなら、それは、私が一人の男の不道徳な命令を超えた法の支配に服従していることに対してなのです。もし私が罰せられるのなら、それは、私がもっと早く行動しなかったことに対してです。マーティン・ルーサー・キング・ジュニア〔訳注=1968年に暗殺されたアメリカの黒人解放運動指導者、牧師で1964年にノーベル平和賞を受賞〕は、かつてこう云っています。・・・「現代の最大の悲劇は、・・・悪人たちの耳障りな騒ぎではなく、善人たちのぞっとするような沈黙である」と云うことを、やがて歴史が記録しなければならないであろう」と。

色々云いましたが、私は英雄ではありません。こんなことはもう沢山だと云った男たちのリーダーです。武力侵攻に先立って戦争を命じた者たちは、サダム〔訳注=アメリカが占領するまでのイラク大統領フセイン〕との外交をヒトラーとの妥協になぞらえました。同じ云い方をすれば、今や私達は、無難に行動するために、戦争を最後の選択としてでなく最初の選択として利用する政権を容認することによって妥協しているのです。多くの人々は、世界貿易センタービル〔訳注=9-11事件で崩落した高層ビル〕について「もう二度と起らないように」と云ってきました。私も、そう思います。テロリストであろうと選挙された公職者であろうと、私達の生き方を脅かす者たちが自由に支配することを私達は二度と許してはいけません。〔訳注: 拍手で中断〕今こそ、反撃する時です。今こそ、皆で立ち上がりこの反撃の仲間に入る時です。

もう一度マーティン・ルーサー・キング・ジュニアを引用して終りにします。・・・「自分の良心が不正だと告げている不正な法律を破る者は、そして、その不正について社会の良心を喚起するために喜んで投獄の刑罰を受ける者は、本当は法律に対する最高の敬意を表しているのです」と。

どうも有難うございました。〔訳注: 盛大な拍手と声援が続く〕

[以上]

以上、ワタダ演説の原文は、
http://www.truthout.org/docs_2006/081406A.shtml
<http://thankyoult.live.radicaldesigns.org/content/view/172/>

記録ビデオは、
前半=QuickTime=[DSL](#) | [56K](#) / Windows Media=[DSL](#) | [56K](#) / RealMedia=[DSL](#) | [56K](#)
後半=QuickTime=[DSL](#) | [56K](#) / Windows Media=[DSL](#) | [56K](#) / RealMedia=[DSL](#) | [56K](#)

なお、日本文は、これらの原文と記録ビデオを照合してダルマが翻訳した。



(両側は両親)
